

弘前城かわら版

Vol.13 [令和7年7月22日]

史跡 弘前城跡では、史跡内にある8橋の上部木材の更新工事を進めています。今号では、令和7年度に改修を行う杉の大橋（すぎのおおはし）について紹介します。

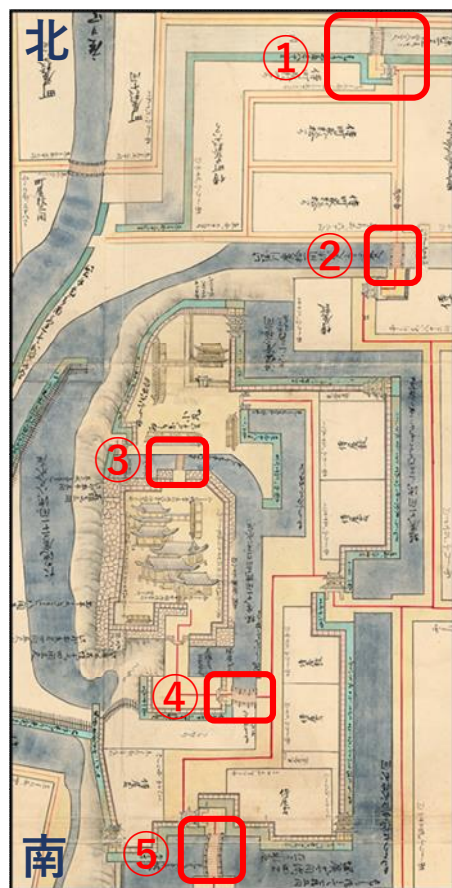
1. 弘前城内の橋

弘前城跡には現在、8箇所の木橋（橋脚はコンクリートパイル）があり、これらは江戸時代からあるものと、昭和初期に新設されたものに分類されます。

正保2年<1645>に描かれた「津軽弘前城之絵図」（図1）は、弘前城を描いた最古の絵図とされ、①亀甲橋（かめのこうばし）、②賀田橋（よしたばし）、③鷹丘橋（たかおかばし）、④下乗橋（げじょうばし）、⑤杉の大橋の5橋が描かれています。

⑤杉の大橋は中濠にかかる橋で、二の丸の南側と三の丸を結んでいます。寛文5年<1665>から、三の丸追手門が城の正門となったことにより、杉の大橋は城内に人を迎え入れる最初の橋になりました。

【図1】正保2年「津軽弘前城之絵図」[部分]
弘前市立博物館所蔵



2. 杉の大橋修理工事

設置：慶長16年<1611>
改修：令和7年<2025>
橋長：25.97m
幅員：6.08m

直近の杉の大橋の修理は、平成22年<2010>に行われています。

約15年の歳月がたち、橋面の敷板を中心に木部材の老朽化が見られることから、今回の修理工事では、敷板や高欄等の木部の更新を行います。工事期間中、杉の大橋は通行止めとなりますので、その際は再度お知らせします。

※敷板（しきいた）⇒橋の歩行面。

※高欄（こうらん）⇒橋の両側に付けた欄干（柵）。

【写真1・2】平成22年<2010>仕様の杉の大橋
令和7年<2025>撮影



【写真1】南から



【写真2】南西から

3.杉の大橋

杉の大橋は、弘前城を描いた最古の絵図である正保2年<1645>「津軽弘前城之絵図」（図1）にも木橋として描かれており、江戸時代から城道として機能していた由緒ある橋です。杉材を用いた橋ということから名付けられたとされています。

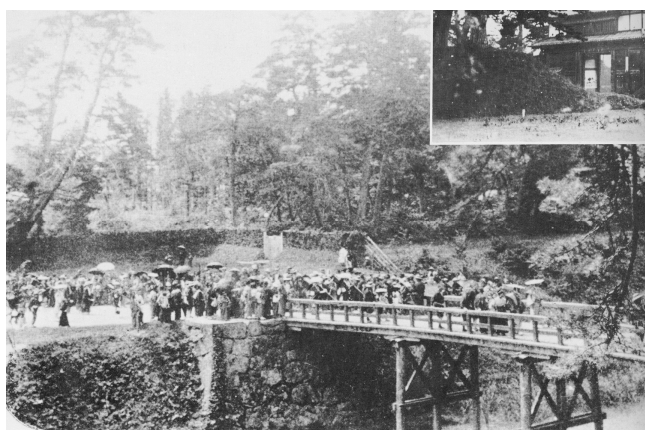
文政4年<1821>には、橋の掛かる濠の両側が石垣になるとともに、檜（ひのき）材によって掛替えされた際に、高欄（欄干）・擬宝珠が付けられたようです。明治前半頃には擬宝珠が無くなっていったようです（写真3）。

写真3は、明治初期頃に撮影されたと考えられるものです。弘前城は明治4年<1871>の廃藩以降、荒廃が進んだとされます。この写真では、雑草が生い茂る中、橋までの通路が細く獣道のように伸びている様子がみられ、廃藩後の城内の荒廃ぶりがうかがえます。弘前城跡は明治28年<1895>に弘前公園として開園しています。写真4は、明治39年<1906>に撮影されたもので、市民等でにぎわう様子がうかがえます。

※擬宝珠（ぎぼし）⇒欄干等の柱の上端につける宝珠形の装飾。



【写真3】明治初期頃と考えられる杉の大橋と二の丸南門

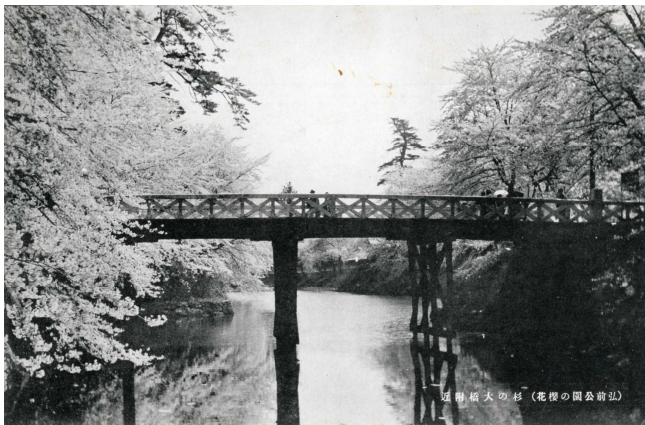


【写真4】明治39年<1906>の杉の大橋

※写真3・4は、山上笙介1980『ふるさとのあゆみ弘前』津軽書房から転載



【写真5】明治末期～大正初期頃の杉の大橋



【写真6】大正中期～昭和初期頃の杉の大橋

※写真5：青森県（青森県史デジタルアーカイブス）「00-O-5517、絵ハガキ（弘前名所）、（弘前名所）揚鷹園二の丸御門」を加工、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示4.0国際（CC BY 4.0）

※写真6：青森県（青森県史デジタルアーカイブス）「00-O-3576、絵ハガキ（日本一桜の名所 弘前公園古城と桜花）、（弘前公園の桜花）杉の大橋附近」を加工、クリエイティブ・コモンズ・ライセンス表示4.0国際（CC BY 4.0）